



村小だより

令和2年11月13日発行

新型コロナ禍での文化祭！ ご支援に感謝

校長 鈴木 正美

立冬も過ぎ、三面川の鮭漁も最盛期を迎えるころとなりました。そんな時節の訪れを全校や地域、そして観光においでの方々に伝えようと、総合の時間に「村上の鮭の歴史や文化」を学習している4年生が鮭幟をあげ、天高い秋の大空に泳がせてくれています。また、今日は瀬波温泉共栄会様からご提供いただいた鮭を使い、塩引きづくりにも挑戦したところです。

先般の文化祭には、多くのご家族やご来賓の皆様が来校くださり、盛り上げていただきました。運動会に続き、学校が学校として機能するために、「仲間と共に体験し、学び、成し遂げる楽しさを味わう」ことを積み重ねるべく、新型コロナ禍による制限・制約の中での文化祭の開催でした。今年も、昨年同様、ご家族で作品を見て回り、作品づくりの苦労話を聞いたり、労いや褒め言葉を掛けてくださったりする様子を垣間見て、私はとてもうれしい気持ちになりました。学校でも、「子どもたちは、称賛や励ましをエネルギーにして自分の力を高めていく。」と考えていますし、学校運営協議会委員の皆様からも、「村小の子は素直なので、できたことを褒めて伸ばして欲しい。」と、ご指摘をいただいているところです。

文化祭の開催にあたり、来校を遠慮していただいた皆様を含め、PTA役員、おやじの会等、多くの皆様のご理解とご協力、ご支援に心から感謝申し上げます。

<11月3日全校朝会での校長講話>

毎年この日は、心を込めて作り上げた絵や工作などの作品を飾って、家族や地域のみなさん、卒業生など、たくさんの方々に見てもらっています。でも、今年は新型コロナウイルスのため、いつもの年とは違う様々な制限や約束をみんなで守りながら行う文化祭となりました。

さて、昨日の夕方、みなさんの作品を見せてもらいました。「どうしようかなあ」といろいろ考えて、いっぱい工夫して作り上げた自分らしい絵や工作などが飾ってありました。一人一人の思いがよく伝わってきました。それを見て、「うまく表したなあ。色使いがきれいだな。ていねいに根気よく仕上げたなあ。」など、ここでもみなさんの「本気」や「真剣さ」がたくさん感じられて、とてもうれしくなりました。世界で一つしかない作品づくり、よくがんばったと思います。

この後、学級ごとにまわって、お互いがんばったところやよいところを教え合ってほしいと思います。そのとき、一つ上の学年や一つ下の学年の作品をよく見ると、「来年はこれに挑戦するのかな」と楽しみになったり、「去年は自分たちもこれを作ったなあ」と、懐かしがったりできるのではないのでしょうか。

また、お家の人とまわったときには、自分ががんばったことや上手にできたところ、中には失敗しちゃったことなど、でき上がるまでの話をたくさんしてあげてください。きっと喜んで聞いてくれると思います。

最後になりますが、今日の文化祭のために、昨日、6年生のみなさんが残って、掃除や飾り付けの仕事を、5年生のボランティアのみなさんが「おやじの縁日」の準備を手伝ってくれました。とても助かりました。

では、作品を見ると、プラ板づくりやおやじの縁日などで楽しむときも、「密集にならない」「校内での飲食はしない」「手先の消毒やこまめな手洗いをする」「マスクをする」など、しっかり守ってくださいね。いつもの年とは違うけど、文化祭ができることに感謝しながら、ルールやマナーを守り、楽しい一日にしましょう。